

船乗りの食事に関する課題解決のためのデザイン提案

Design Proposal for Solving Problems Related to Seafaring Meals

佐田寛朗 SATA Hiroo 2018年入学 | 工業設計学科 Industrial Design

分類: 卒業研究

作品/論文: 作品

制作年度: 2021年度

課題概要: セーラーのためのプロダクト



図1 制作物全体図



図2 斜面に置いた時の様子



図3 水平トレー

図4 水平を伝えてくれるオブジェ

【背景・目的】

セーリングヨットは、娯楽の乗り物としてだけでなく、競技性も高い事からオリンピック競技にもなっている。セーリングヨットはマストと呼ばれる支柱を軸に張られた帆で風を受け、発生した揚力で前へ進む。そんなセーリングヨット、大型のものから小型のものまで沢山の種類がある。本研究では、キャビンを備えた大型のヨットである、クルーザーヨットを対象とする。クルーザーヨット競技は、大洋横断や長期間のビッグレースなどがあり、過酷な自然を相手に航海するため、常に危険と隣り合わせであり、セーラーは肉体的にも精神的にも負担を負う。過酷で忙しい環境により、セーラーはリラックスや休息をするタイミングが少ないのが現状である。本研究では、すべてのセーラーが毎日、複数回行う行為でかつ、休息に繋がる食事の行為に着目する。本研究の目的をクルーザーの航海中の生活を調査し、セーラーの船上生活の質向上のための食事に関するデザインとする。

【研究の方法】

①映像記録調査②ヒアリング調査③実地調査④課題と潜在的なニーズの抽出⑤コンセプト・要件立案⑥アイデア展開⑦最終提案

【調査結果と課題】

帆走時はある一定の傾きを維持し走行する。食事内容は、調理が不要な、カップ麺やレトルト食品ばかり。長期間航海も、食材が腐るためカップ麺やレトルト食品になる。洗い物等を増やしたくなく1品もので完結する料理(カレー、スープ系)が多くなる。保存で困ることは、湿気が多く食材が腐りやすいこと。シンクが小さいため正直洗い物が面倒くさい。手にもって食べれるものでないと傾いて危険。食事は本来、楽しく、リラックスできる行為だがセーラーにとってストレスになっている場面が多々あることがわかった。課題は、食事という行為が揺れや傾きでできていないこと、食べれるものの制限により食事の楽しみが失われていることである。

【コンセプト】

以上の調査結果をふまえ、今回の提案は「食事に楽しみを与える食卓周りのデザイン」をコンセプトとし、以下の3つをデザイン要件とした。①食事に楽しさを与える②セーラーの食事に対するストレスを緩和する③使いやすく、美しい

【最終提案】

2つのプロダクトを最終提案とする。①水平トレー…ヨットが帆走中でも安心して、食事をしてもらうために、ビーズクッションとおぼんを組み合わせた水平トレー。傾いた食卓に置き水平を作ったり、凹凸がある場所でも安定しておけたり、膝上での利用もできる。②水平を伝えてくれるヨットオブジェ…クルーザーヨットの食卓に置いてもらうことを目的とし、海上での船体の傾きを視覚化したオブジェ。食事中、船の傾きを客観的に知覚することで、食事しながらもヨットのことを気にかけてもらう。また、①の水平トレーを使う際のアシストとして、②を移用する。